

高い精度で同時に両転移が起きていることを示しました。この構造相転移は近年、電子ネマティック不安定性として話題になっているのですが、その際、面内歪やドープなどでエンハンスされて観測されます。本研究は ^{75}As -NMR を用いた電子ネマティック研究の対照リファレンスとしても引用されて、現時点までに200弱と少なくない引用数を頂いております。

ところで、物理学会の受賞理由では、「多くの研究者が超伝導状態の解明に注力し激しい競争を繰り広げていた。それに対して著者らは、そこから一步引いて母物質の磁性に焦点を当て、鉄系超伝導体の物性研究の基礎を築いた点で…」とユニークな紹介をされており若干気恥ずかしいです。鉄系超伝導の研究全体を富士山に例えると、裾野の一部として評価されたということですが、「基礎を築いた」ということで今回栄えある賞を頂きました。著者全員を代表して物性研究所の皆様に深く御礼申し上げます。



(2019年3月16日、九州大学伊都キャンパス椎木講堂にて)

